

# 「暮らしを結ぶ地域のバス！」

## ～地域の足を確保する取組～

バスは、私たちの通勤や通学、買い物の日常生活において欠かせない重要な交通手段です。近年は、深刻な運転手不足により路線バスの減便、廃止が発生しております。こうした状況を受け、自治体が主体となって住民のためにバス運営を行う取組が行われています。

### 1. 地域の交通課題について

自治体が主体となってバス運営に取組むことになった背景



(※) 具体的な影響：住民の通学・通院・買い物の機会減少による地域経済の縮小

次のページから、自治体での取組を紹介します

#### ①赤井川村「むらバス」(P2～3)

路線:余市町～赤井川村

##### ■特徴

- ガバメントクラウドファンディングで多くの関係人口創出。皆と共に創造していく「むらバス」として運行。
- キロロリゾートまで延伸した結果、観光需要を取込み、300%乗車人数アップ。

#### ②岩宇地域公共交通活性化協議会「しおかぜライン」(P4～5)

路線:神恵内村～岩内町

##### ■特徴

- 4町村でバス運営を行う全国的に稀有な取組。「しおかぜライン」が町村のかけ橋に。
- 延伸効果で地域住民の通学、通院需要に対応。

## 2. 自治体の取組紹介①

### 取組：赤井川村「むらバス」

#### ①概要

路線:余市町「コープさっぽろ余市店前」～  
赤井川村「キロロマウンテンセンター」  
(次ページ「むらバス路線図」参照)  
便数:平日4便8往復、土日祝3便6往復  
車両:29人乗りマイクロバス 1台使用

#### ②むらバス運行までの道のり

令和元年12月 利用者減少の影響から  
路線バスが平日と土曜のみの運行に。



日祝は村のスクールバスを利用して運行補完。  
バス運営に関して北海道運輸局に相談。

令和2年11月 乗務員不足によって路線バスの  
撤退協議開始。(※)  
※後に令和4年3月末時点での廃止決定。



撤退協議を受け村営でバス運営を本格検討。  
住民との対話を重ねる。

令和3年10-11月 路線バスを止めて実証運行を実施。



運行にあたりガバメントクラウドファンディング  
を実施。(約500万円を調達)

令和4年4月1日 路線バスの廃止に伴い  
「むらバス」の運行開始。

#### ③運行実績（令和5年）

利用者数:19,848人(約55人/日)

令和3年実績(※)比 **約300%増**

※平日と土曜の路線バス+村で運行した日祝 & 2か月の実証運行の人数  
年間運賃収益:約5,000,000円

乗客:主に余市、小樽方面への通学、通院、リゾート客と施設従業員

#### ④村役場 担当者の声（運行開始までの取組）

○ゼロからのスタートだったので大変であった。

→ 運輸局からは運行許可の取り方、路線バス会社からはノウハウ  
等を提供いただき助けをもらい、運行まで結びついた。

○村民の理解獲得（愛されるバスに）

→ 路線バス時代に利用者が少なかったことから、バスの村営化に  
は村民の理解を得る必要があった。アンケートの実施、対話、  
料金やルート等に要望を取り入れ、村民に利用されるバスを  
目指した。

○全国からの「共感」

→ ガバメントクラウドファンディングを利用して、関係人口(=  
ファン)を増やす取組を行い全国からの「共感」を得た。

## 2. 自治体の取組紹介①

### 取組：赤井川村「むらバス」

#### ⑤村役場 担当者の声（運行開始後に行った取組）

##### ○片道定期券の導入

→村外の高校で部活動を行っている生徒は帰宅時間が遅く、保護者が片道送迎をしていることから、片道定期券の導入要望があった。

##### ○バスとの複合企画の実施（村民に愛されるバスに）

→むらバスに乗って買い物ツアー、学校行事への利用、商店をバスの待合所にさせてもらうなど、バスと複合した企画を実施。

##### ○国土交通省から大臣表彰を受賞

→周囲の資源や環境を取込んだ公共交通確保の取組が評価され「令和5年度地域公共交通優良団体大臣表彰」を国土交通省から受賞。

#### ⑥村役場 担当者の声（今後の取組）

○余市町の病院まで路線を延伸検討。（実証運行中）

○バス大型化の検討(リゾート客や従業員の利用増により地元住民が利用できない場合が発生しているため。)（実証運行中）

○キャッシュレス化の検討（外国人観光客の利用増による）

#### ⑦今後の展望

○引き続き、多くの人の声を聞き「むらバス」が地域に浸透していくようにしていきたい。行事や取組を村民とともに行うことで更に距離感が近くなり利用してもらえるようになると嬉しい。

### 「むらバス」路線図



## 2. 自治体の取組紹介②

### 取組：岩宇地域公共交通活性化協議会（事務局：共和町役場）「しおかぜライン」

#### ①概要

路線:神恵内村「川白」～岩内町「岩内高校」  
(次ページ「しおかぜライン路線図」参照)  
便数:平日5往復、土日祝3往復  
車両:29人乗りマイクロバス 2台使用

#### ②しおかぜライン運行までの道のり

令和3年9月 運転手不足等により、  
路線バスの廃止協議を受け、  
対応策について沿線自治体で検討開始。  
※後に令和6年9月末で廃止決定。

↓  
前身の協議会で廃止協議について話し合われる。

令和5年4月 路線バスの沿線自治体である、  
神恵内村、泊村、共和町、岩内町  
の4町村で協議会を発足。

↓  
運行にあたり住民の利用実態の調査や  
住民に向けた路線名称のアンケートを実施。  
車体デザインは岩内高校生徒。

令和6年10月1日 路線バスの廃止によって  
「しおかぜライン」の運行開始。

#### ③運行実績(令和6年10月1日～令和7年1月31日)

利用者数:約9,200人(約90人/平日、約50人/休日)  
年間運賃収益(見込み):約14,000,000円  
乗客:主に神恵内、泊方面から岩内への通院、通学

#### ④担当者の声(運行開始までの取組)

##### ○バスが4町村のかけ橋へ、ゼロからのスタート

→全国的にあまり例を見ない4町村合同での運営のため、会議日程の取りまとめから難儀することが多かった。運輸局からは運行許可の取り方、路線バス会社からはノウハウ等を提供いただき助けをもらい、運行まで結びついた。

##### ○路線バスからしおかぜラインへの円滑な移行

→高齢者が多く通院需要が高い地域実情をかなえるため、地域の足として是が非でも運行しなければという気持ちで取組んだ。結果、路線廃止後1日の空白期間もなく運行できたことは、大きな喜びであった。

##### ○民間企業への委託と地元住民の雇用

→プロポーザル(提案型)方式の運行で民間企業に委託しており、提示したダイヤにあわせた運行を行ってもらっている。あわせて必要な運転手は事業者が確保し、地元の方が雇用されている。

##### ○地域との連携

→地域に根つき親しまれるバスになって欲しいという思いから車体のデザインと題字は岩内高校の美術部と書道部に協力を依頼した。



## 2. 自治体の取組紹介②

### 取組：岩宇地域公共交通活性化協議会（事務局：共和町役場）「しおかぜライン」

#### ⑤ 担当者の声（運行開始後の取組）

##### ○利用者助成の取組

→通学する高校生の通学定期の補助（泊）、高齢者へバス等の利用助成券交付（泊、共和）、全村民無料（神恵内）の取組を実施。  
※構成町村ごとに独自の取組を行っている。

##### ○他線との交通利便性向上

→札幌行の高速バスへ乗り継ぎしやすいダイヤ編成。

##### ○キャッシュレスの調査

→利用者への助成額の把握や乗降状況把握ため、交通決済システムを導入し、QRカードによる利用を行っている。

##### ○路線延伸（岩内高校～バスターミナル間）

→延伸した区間で新たな利用者を獲得しており、延伸の効果を実感した。

#### ⑥ 担当者の声（今後の取組）

##### ○利用者のニーズに合わせた運行ダイヤの編成

○より利用しやすい柔軟な運行体系の検討（フリーライド区間の設定など）

#### ⑦ 今後の展望

○引き続き、地域で身近に親しまれるよう「しおかぜライン」の運行を行い、利便性やサービス面の向上で、地域での更なる利用者拡大を目指して取組を行いたい。



### 3. バス利用者の声

村外の家族から同居を勧められても、むらバスがあれば、通院、買物に利用できるので、まだ一人で生活できる。

村外に遊びに行くときは、むらバスのダイヤを確認してむらバスを第一の手段として利用している。



唯一の公共交通機関であるバスが、しおかぜラインとして維持されたことは大きな喜びであった。

今後、増便やバスのサイズアップなどあれば便利だと思います。

### 4. まとめ

今回は、暮らしを結ぶ地域のバスについて、自治体2団体にヒアリングしました。

紹介させていただいた自治体では、かつての路線バス運行ルートを引き継いだだけでなく、地域の人たちとの対話を重ね、必要とされる路線設定するなど住民とともに交通課題を解決していくための多様な取組を展開していました。

今回のレポートでは2つの地域のバスの取組を紹介させていただきましたが、これらのバスの取組は路線廃止という大きな逆境を経験し、それを地域の人たちとともに乗り越えたからこそ、今となってはその地域になくてはならないものとして愛される存在となっていると感じました。